

【節句人形を公民館に飾りました】

第四波とも言われる新型コロナウイルス変異株の感染拡大が収まらず、京都府においても嚴重警戒期に到達したとして 感染症予防対策が要請されている折、少しでも心が潤い、癒しを感じてもらえたらとの想いを込めて、昔から子どもの成長を願って飾られている『五月人形』を公民館玄関に飾りつけました。



【五月人形の豆知識】

「端午の節句」は、もともと古代中国の季節行事「五節句（七草の節句、桃の節句、端午の節句、竹（笹）の節句、菊の節句）」の1つでした。「節句」とは、季節の変わり目という意味。季節の変わり目には邪気が寄りやすいので、季節ごとの飾りとお供えものをして厄払いをし、無病息災を願う風習がありました。

現在の5月はさわやかな初夏ですが、旧暦5月は今の6月にあたります。つまり旧暦5月の中旬以降は、梅雨の時期になるのです。

「端午」は、旧暦5月の最初の午（うま）の日という意味。

武士が台頭してくる鎌倉～室町時代になると、この時期、武家では鎧や兜を出して、家の中に飾る習慣がありました。梅雨の目前に武具へ風を通し、虫干しと手入れをするためです。端午の節句に兜や弓が飾られるのは、こうした武家の習慣に由来すると言われています。

兜や甲冑、弓などを戦闘の用具ととらえる考え方もありますが、武将にとって兜や甲冑は、身を護る大事な装備。五月人形の兜や甲冑には、「わが子を守ってくれるように」という願いが込められているのです。

加えて今は、コロナ感染から子どもや町民の皆さんを守って欲しいとの願いも込めて飾っています。